

おおま

No. 88
岬の光

平成28年1月4日発行

議会だより



鯨口 (ワニグチ)

300年の奇跡

弁天神社の神具 (鯨口) が戻る

※ 詳細は8ページに

主な内容
12月定例議会

○新年のご挨拶

P 2

○平成27年 第4回定例会

P 3

○4議員が一般質問

P 4～7

○報告・編集後記

P 8



石 戸 秀 雄
議長 議員

新年のご挨拶

町民の皆様、明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を皆様とともに迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

新しい年が大間町にとって繁栄をもたらす素晴らしい年になりますよう心から願っております。

当町にとりまして最重要課題の一つである大間原子力発電所の完成の時期が見通せない中、引き続き厳しい経済状況にあることは変わりなく、大間町の財政は自主財源に乏しく、国の施策などに大きく左右される財政構造の脆弱さは、いまだ改善されておりません。

大間町に目を転じてみますと、基幹産業である漁業では大間漁協において、コンブ・マグロの水揚げ増により、12月5日で販売目標を達成できましたが、奥戸漁協では目標に届かない状況です。

新年においては、北海道新幹線・新函館北斗駅開業が本年3月26日とあわずか2ヶ月あまりと迫り、観光の面からその開業効果が大間町にもおよぶことが期待されております。

これと併せて、大間町のPRとともに特産品開発や商・観光業の活性化、さらには、住民福祉の向上のための生活環境の整備、高齢者や障害者福祉の充実、少子高齢化対策などを行い、また、大間町の将来を担う子ども達のための、教育の振興など、町発展のための課題解決に向けて日々取り組んでまいります。

「一年の計は元旦にあり」と言われるように、将来を考え、新しい年の計画を立て、新しい希望の出発点となることを期待するものです。

私たち議員一同、大間町民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、決意も新たに、安心・安全で思いやりのある大間町の実現に向けて取り組み、より豊かで魅力あるまちづくりに全力を尽くしてまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、新しい年が町民の皆様方にとって、実り多き年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

第4回 12月定例会

平成27年第4回定例会を12月1日開会し、12月4日閉会しました。
本会議に提案された議案10件はすべて原案のとおり可決しました。

平成27年度補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ137万4千円を減額し、予算総額を53億598万3千円とした。

歳入の主なるもの

- 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金518万4千円。
- 公用施設維持運営基金繰入金2千万円を減額。
- 水産振興基金繰入金1200万円。

歳出の主なるもの

- 財政調整基金積立金5千万円を減額。
- 下北半島ジオパーク構想推進協議会負担金4百万円。
- 川内原子力発電所視察研修費用弁償168万6千円。
- 国庫負担金の精算に伴い償還金429万

9千円。

- 介護保険特別会計繰入金250万7千円。
- 医療費の増加に伴いひとり親家庭等医療費百万円。
- 公定価格単価の変更及び入所園児の増に伴い、うみの子保育園指定管理料117万2千円。
- 水産振興事業費補助金1200万円。
- 材木漁港施設機能強化事業費の組替により委託料を5百万円追加し、工事請負費5百万円を減額。
- 除雪費用として重機借上料6百万円。

介護保険 特別会計

歳入歳出それぞれ200万4千円を追加し、予算総額を5億286万6千円とした。

下水道事業 特別会計

歳出の組替補正であり、公共下水道費で委託料785万8千円を減額し、工事請負費に同額を追加計上。

国民健康保険 特別会計

歳出の組替補正であり、一般被保険者療養給付費46万4千円を減額、退職被保険者等高

個人番号の利用に 関する条例

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に伴い、個人番号の利用、特定個人情報提供の提供に必要事項を定めるもの。

個人番号法の施行 に伴い条例の改正

- 条例の一部を改正
- 国民健康保険税条例の一部改正
- 介護保険条例の一部改正
- 半島振興対策実施地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正

完成 奥戸ゆうゆう館

名称 大間町奥戸ゆうゆう館
場所 奥戸字向町89番3 (奥戸郵便局向かい)
目的 地域住民活動の促進と福祉の向上を図る。
※使用料については、奥戸コミュニティセンターを参考に定めています。28年1月開館予定。



一般質問



正 根 秋 雄 議員

1 ふるさと納税について、現在の
大間町への寄附状況と、今後、寄
附者を増やすための施策は。

町長答弁

今年度分は73件で、
274万6千円の寄附
をいただいています。

今後、更に寄附者の増
加を図るため、ホーム
ページの内容の見直
し、寄附者への返礼品
の内容等を明示した
い。

また、手続きの簡素
化と、いろいろな会合
の際に、ふるさと納税
のお願いをしたい。

再質問

寄附者の方々は、大
間に縁がある方々なの

か、それとも大間に関
係ない方々なのか内容
をお聞きしたい。

町長答弁

個人情報も関係する
ので詳しくお答えできな
いが、縁のある方ない
方いろいろいます。

再質問

納税の返礼品につい
てお聞きしたい。大間
と言えばマグロだが、
大間牛など地場製品の
活用を考え、商工会を
通じて地場産業者との
会合を開き、意見交換
する考えはあるか。

町長答弁

函館には現在、週10
便の定期便を利用し、
台湾から約20万人の観
光客が訪れています。

その観光客を、大函丸
を利用して下北に迎え
たいと努力しています。

昨年、観光協会が募
集した方々と、天妃
様つなりの北港朝天
宮を参拝しながらPR
してきました。

10月29日に32名、11
月5日には68名のツ
アー客を函館から迎え
入れています。

また、12月16日から
19日まで県知事をトッ
プとし、私とむつ市長
を加えた中で、台北市
と高雄市等を訪問、県

品を一緒に送るよう指
示はしています。

大間を理解していた
だく良い機会なので、
次年度からその辺を整
理しながら進めたい。

町長答弁

の物産などを販売につ
なげるマーケットの視
察を行う事としていま
す。ただ、観光は行政
だけで完結できないの
で、観光に携わる事業
者の皆様が一生懸命努
力していただく事が大
事だと認識しています。

さらに、津軽海峡
フェリーが台湾に事務
所を持っているため、
タイアップを進めなが
ら、旅行者の誘致に努
力したい。

再質問

台湾・中国に輸出し
たいと考えている地元
業者のため、町長みず
からトップセールスが
できないか。

また、製品開発等も

併せてお聞きしたい。

町長答弁

マグロ等に関しては
要望があるので相談し
ながら進めたいが、市

町長答弁

効果に対しては調査
データが必要で、数字
的には明確に提示でき
ないが、25年就航後24
年度に比べ旅客、車の
数は大きく伸びました
し、現在もその数を維
持しています。

経営状況について、
25年度は約1億300
0万円の赤字、26年度
は1億1000万円の
赤字、今年度は燃油等
の値下がり部分を考慮
しても数千万円の赤字
となっておりますが、今
後、町として利用促進
に力を注ぎたい。

再質問

年間数回変わる旅客
運賃について高齢者・
病院通院者等から苦情

が出ています。旅客運賃
の変動の対策と、利用
者への周知は考えてい
るのか。また、将来、
町に負担がかからない
よう経営状態のチェッ
ク体制に万全を期して
いただきたい。

町長答弁

通年同じ運賃で安く
利用できるのが理想だ
が、経営に関わる部分
であり口出しできない
が、地域の声として伝
えたい。周知の件は、
広報おま等で掲載し
ているが、行き届いて
いないならば、今後、
工夫・検討したい。

また、町の経営に負
荷がかからないよう万
全を期したい。

2 台湾・中国を含む外国旅行者を
大間町に誘客するインバウンドの
施策について具体策を伺いたい。

3 大函丸の就航3年間の観光効
果・経済効果、フェリーの経営状
況と今後の展望について。

一般質問



竹内 勝雄 議員

国保大間病院に整形外科医の常勤、むつ病院からの医師派遣について

むつ総合病院から週

1回派遣されていた整形外科医が、平成25年度で廃止され、それ以後、北通り三ヶ町村の整形外科受診者は、個々で函館・むつ市・十和田方面へと通院しています。

高齢化社会を迎えた現在、北通りの地域医療の中核をなす大間病院に整形外科医の常勤、もしくは派遣医が急務と考えますが、町長の考えをお聞かせください。

町長答弁

むつ総合病院への派遣元である弘前大学内の退職者等による医師不足で、むつ総合病院への派遣医が1名減となり、郡内への医師派遣に困難をきたし、派遣休止状態が現在も続いています。

県・弘前大学に一日も早い医師の確保を要請していますが、思うように進んでいません。

県では医師確保のため、弘前大学医学部に

特化した奨学資金等の実施などを講じていますが、効果が表れるのはまだ先かと思えます。

引き続き下北地域の実情を訴え、地域医療の充実に向け努力したい。

再質問

24年度実績で、大間病院整形外科受診者の月平均人数が442名、現在、むつ総合病院の整形外科医は5名と聞いています。以前同様週1回、最悪2週に1回のペースで派遣できるよう尽力をお願いしたい。

町長答弁

むつ総合病院の医師1名減により休止状態が続いていますが、高

齢者の町外への通院は厳しいと思えますので、県・弘前大学、そして、むつ総合病院には最悪、2週に1回でもと、要望をしていきますし、町独自の医

師確保も含め、努力したい。

再質問

高齢者がむつ市までの運転は困難、フェリーの乗り降りも大変との声をたくさん聞きます。その人たちのためにも整形外科医の確保は重要事項だと思いますので、宜しくお願

町長答弁

相手側にも医師不足の状況がありますので、下北医療センターの組織の中での対応を、議論したい。なお、今後も諦めることなく要望の継続を約束いたします。

共同墓地にトイレの設置を

再質問

現在、共同墓地には1392個のお墓があると聞いています。帰郷された方々の話を聞きますと、ほとんどトイレが設置されていると言われます。お墓参り等で男女とも不便を感じていますので、大間でも設置を考

町長答弁

えてみる必要があるのでは。

再質問

お墓参りに花火を上げる風習が珍しいとテレビなどで放送され有名になっています。管理体制もあるでしょうが、その辺も考慮してお願いしたい。

町長答弁

常設のトイレについては、財政等も含め、できる限り早い時期を考えた

一般質問



野 崎 信 行 議員

1 町の災害対策本部を道の駅にすべき

町長答弁

大間町防災計画でも庁舎に設置し、総合的に迅速に対応することとなっている。

2 下手浜児童公園に遊戯用スケートボードを設置せよ

町長答弁

設置は不相当と考える。

3 町有地の有効活用を

町長答弁

大間平41の3については公共用代替用地であり、内山48の145

については現時点では考えはない。

4 フェリーふ頭の漁船のつりかんが腐食しているが

町長答弁

港湾は県管理で、県が改善することになっている。

5 空き家活用に補助金を

町長答弁

先例地の事例を参考としていく。補助金については考えがない。

6 東通原発事故避難誘導の協力を

町長答弁

県から具体的に要請があった時点で考える。

7 地域おこし協力隊に支援を

町長答弁

地域活性化には有効と考えますので、一つの選択肢として注視していく。

8 大間町のゆるキャラをもう一つつくるべき

町長答弁

クリーニング等の問題もあるので、2体制で考えていきたい。

9 放課後子ども教室を水曜日以外の他の日も6時までやるべき

町長答弁

今後、更なる充実を目指していく。

10 今別変電所の活用を

町長答弁

自治体が関与できるものではなく、電力会社の判断となる。

11 原発2基目は火力発電を

町長答弁

2基目の議論は、時期尚早。

12 風力協会へ加盟すべき

町長答弁

全国的に進んでいない状況であり、今後の検討課題とする。

13 図書整備を

町長答弁

各学校とも標準を達成すべく、毎年度の町の予算に計上し、図書整備に努めていく。

14 大間地区コンブ増殖漁場の埋没状況調査を

町長答弁

商店街等で実施しているものです。

町長答弁

漁協と協議していく。

15 定住促進目的事業推進を

町長答弁

策定作業中の大間町総合戦略策定を受け、具体的に対応していく。

16 板柳町が町税、コンビニ収納をはじめたが我が町は

町長答弁

費用対効果等を調査していく。

17 幼稚園・保育園を無料に

町長答弁

具体的な国の制度改正を見極めて対応する。

18 新庄市・大阪市が日めくり買い物クーポンカード導入をやっているが

町長答弁

商店街等で実施しているものです。

19 いじめアンケートの実施を

町長答弁

教育委員会で年3回、各学校で実施しており、適切に活用されている。

20 一億総活躍社会不妊治療支援の拡充を

町長答弁

国の制度を注視していく。

21 田子町が県内初「日本で最も美しい村」に加盟したが

町長答弁

町の適格性、効果や負担を慎重に検討していく。

22 大間町民自治基本条例策定を

町長答弁

先例地の状況など、慎重に調査研究していく。

一般質問



加藤正喜 議員

1 平成28年3月26日

に、北海道新幹線新函館北斗駅が開業するが、町長は以前から函館の観光客を大間に引き込むと繰り返し発言してきた。

開業まで約4ヶ月、観光客誘致の具体策は。

町長答弁

3月26日の開業に向け、観光協会・商工会・青空組・高校生ボランティア等、おもてなしとして大函丸乗ったぞフェアや、フェリーでの歓迎・PR活動をを行っています。更に、道南地域にはタブ

に主眼を置いてきましたが、今後は仙台を中心にした地域を考えています。

なお、地元対応として、フェリーターミナルに多言語での歓迎横断幕・観光PR・DVDの作製、台湾用のパンフレット等の作製などを考えています。

再質問

28年7月から地方自治体・観光業者・JRグループとの連携のデザインセッションが始まります。また、27年7月、国内外の仲介業者に参加していただき、下北・道南の現地研修等も実施、下北には35社が参加、約30名の方々から、とても魅力的な地域だとの声をいただいています。

今までのPR活動は、札幌及び、首都圏

再質問

町長は今まで天妃（媽祖）様をメインに台湾・中国の方々を大間にと言ってきたが、現在の祀られ方、参拝の仕方、建物など、どれも大きな問題があると思うが。

町長答弁

台湾式の参拝、祀られ方の違い等、自治体として取り組むには大きな課題ですが、乗り越えていければと思っています。

2 むつ市を中心に、下北ジオパークの認定を目指しているが、大間町は大間崎・材木地区の柱状節理・赤石海岸・層状玄武岩の露頭の4ヶ所を挙げている。その理由をお聞きしたい。

町長答弁

通訳の専任については、具体的に定まっていません。ボランティアガイド等については、職員も一生懸命取り組んでいますので、今後の課題としたい。

町長答弁

平成25年1月に、日本ジオパーク地域認定

を目指しましたが、見送りの結果を受け、28年度の認定を目指し、新たな取り組みをしています。前回の選定は4ヶ所でしたが、現時点では大間崎・大間灯台を含めた大間崎サイトと、津鼻崎サイトとして、専門家の意見を聞きながら選定しています。

再質問

大間町の文化財審議委員会に自然を専門にしている方が数名いる。私も10数年委員長をしていたが、1回も会議の招集がなく、気が付いたらこの状況です。専門家に話を聞く気はなかったのか。

町長答弁

むつ市から機運が高まり、地質学等の専門家を入れた推進協議会が発足しました。ただ、委員の専任については結論が出ていませんので、むつ市の事務

局に問い合わせをした。

再質問

大間崎サイトで考えるなら、一番坂から三番坂までの湿地帯は、段丘から湧き出た水が湿地帯を作り上げている貴重な地域です。全体は40坪の私有地だが、所有者の了解を得、木道を作れば十分観光資源になりうるが。

町長答弁

会議等を通じながら提案をしていきたい。整備については、民有地を考慮しながら検討を考えた。

再質問

答弁はいろいろなが、このままではフェリーの発着地、通過点になる危険性が危惧される。10年後、20年後を見据えた取り組みをしていただきたい。

300年の奇跡

弁天神社の神具が戻る

鰐口とは：

神社・お寺等の入り口軒下に下げられている銅製の円形神具で、下方が横長に開口し扁平したような形をしている。参拝者は緒の下の端を持って振り、撞座に当てて鳴らす神具。

返納された鰐口には、表の右側に縦書きで**正徳5歳4月吉日**、左側に**大間村**と刻んであり、正徳5年（西暦1715年）江戸幕府**7代将軍徳川家継**の時代のもの、今年で**300年**を数える。

大間町の郷土史研究者等、諸先輩方の話を紹介すると、鳥居崎（最北端）にあった弁天神社の建て替えのため、某氏の蔵に神具を一時預かった時に行方不明になり探していたが、第一回大間町文化

祭に、一日だけ某氏の縁の方が秘藏品として出品。所在は判明したが、返していただかなかったという。所有していた家族から12月、大間稲荷神社の宮司に返納されたが、子細が解らない宮司が町の教育委員会に相談、教育委員会から私に話があり、判明した。

鰐口を見た時の驚きと、やっと戻ってきたか、という安堵感。**300年**の節目という奇遇さを考えれば、神がかりというか、何かに導かれたような因縁性を感じてしまう。弁天神社の歴史を伝える貴重な神具であり、町指定級の有形文化財と言ってよいだろう。

（記）加藤

報告

新聞報道等で住民の方々はすでにお分かりのように、町が提案したオフサイトセンター建設立地場所は適さないと最終報告が県から町に示されたことを受け、大間町の思い、希望をもう一度伝え、県の再考をお願いするため、県原子力安全対策課との意見交換が12月22日実施された。

出席者、金澤町長・石戸議長・宮野副議長・竹内勝雄・加藤・野崎・千代谷・岩泉各議員が出席。県側は、庄司課長以下4名。県側から適さない理由として、

1. 材木地区の一部が5 km圏内に含まれるためPAZ（即時避難、放射性物質の放出前から防護処置する準備）となり、オフサイトセ

ンター立地場所が避難区域に指定され、使用不能状態に至る可能性が高い。

2. 全面緊急事態時、同施設の活用となった場合、発電所付近が通行不能になるため、むつ市川内方面を迂回することとなり、迅速な活動に支障が生ずる。
3. 提案地は共有地で、相続登記等がなされていないため、用地取得が困難。

再考は無理との感触を得た。

全面緊急事態発生時、全町民が避難対象となり、町の災害対策本部（役場）も移転が必要となる。県は、災害応急対策や業務を中断させないため、町の対策本部の移転先を考慮に入れ、新たな立地場所を選定する。費用については、国の負担としていただくよう県と町が協力して要望していく。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年も申年です。干支小話によりますと、申（サル）は去るに通じ、悪い事が去り、福を呼ぶ動物として愛されてきたそうです。これに、皆様共々あ

やかりたいものです。但し、私こと、昨年皆様が大変ご迷惑をおかけしました事は、決して忘れ去ることなく精進してまいります。何かと厳しさの続く近年ですが、猿の可愛い鳴き声のように「嬉々」とした年にしたいものです。

（記）佐々木

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 弘

宮野 昭一